

枝豆洗淨選別設備稼働

株式会社たかのすファーム

今年は200トン

販売金額 1億2,600万円目標!!

当J A管内で枝豆を中心に園芸メガ団地の整備に取り組む「株式会社たかのすファーム（内山正博代表）」の園場では今まさに枝豆の収穫作業真っ只中です。今年は出荷目標200トン、販売目標1億2,600万円を掲げています。

主な出荷先は東京市場で、他にも当J A直売所「産直おだいこ」や地元のスーパーなど。産地のPRとともにトップブランド化に向けて販売を強化しています。



株式会社たかのすファームは、2017年に地域を拠点とする農業4法人の交流の中から誕生しました。年間販売金額1億円以上を目指す枝豆園芸メガ団地に取り組むため、国の『産地パワーアップ事業』を活用し、生産に取り組みはじめました。また、同年9月には、スピン式の水槽洗浄機や色・形を瞬時に選別する光センサー、計量・包装などを自動で行える機器などを備えた「枝豆洗浄選別設備」を



導入し、作業効率や生産数量の向上を実現。それに伴い作付面積も平成29年の15畝から30年には41畝、現在は56・3畝にまで拡大しました。

作付する品種も「湯あがり娘」や「ゆかた娘」など全国的に人気の高いものから、独特の香りが特徴の「あきた香り五葉」、粒が大きく食べ応えのある「あきたほのか」など県のオリジナル品種も豊富に栽培しています。



8月11日は、早中生種「湯あがり娘」の収穫が早朝からはじまり、収穫されたばかりの枝豆が入ったコンテナが続々と運び込まれました。施設内ではブラシ洗浄と水槽洗浄を終えた枝豆が幅選別や光センサーの中を通りながら移動し、最終ラインでは従業員の皆さんがベルトコンベアで流れてくる大量の枝豆に目を光らせながら選果作業を行いました。

従業員は「皆さんには大変好評



いただいています。品種はたくさんありますが『あきたほのか』は県も一押し品種なのでぜひ食べてみてください」と話していました。

枝豆は例年7月中旬から10月中旬までリレー方式で収穫・出荷が続き、時期によって違った味わいが楽しめます。